
守りましょうとも！

満月氷

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

守りましようとも！

【Nコード】

N7596N

【作者名】

満月氷

【あらすじ】

私は瞳様の守護をしているのに！まったくあいつというやつは！

「紫乃どの〜！」

来た。また来たよあの野郎。

「会いとうございました！お久しゅうございますー！」

私は青筋をたてながら無視していると、横から急に手がのび、首の前で交差した。

！？

「紫乃どの…」

後ろからなんの断りもなく抱きついてきたあいつに私は横っ面を引っぱたいてやった。

「うう、ひどい…。二日ぶりでございますのに…」

赤くなってしまった頬をおさえながらヨヨヨ、とくずれるこいつ。

男の貴様がそんな気持ち悪いことをするな！それにこの前嫌でも会ったではないか！

と、叫びたいのだがだせない。

瞳様の守護をしている私は理由があつて声が出せないのだ。しかし出せる方法は一つだけある。あるにはあるのだが、腹立たしく言いたくもない。

…瞳様が、わ、私がお守りしている、瞳様が、あ、あんなことをするなんて、想像したくもない！

「紫乃どのっ」

…、なんだ、もう立ち直ったのか。では、今一度…

「わあっ！し、紫乃どの…」

ふわりと飛んで避ける。こいつも私と同じで妖怪などではなく一人の人間を守護するやつ。

それにしても何でこいつ、私の心が読めるんだっ

「それはですね、紫乃どの。他の者にはわからないかもしれませぬが私は貴女の顔を見ていたらわかります。いわば愛の力というやつです！」

うわあ！い、いきなり顔を近づけるでない、ばか者！それから女みたいなそのしゃべり方、やめい！何度言ったらわかるんだ！

「もしかしたら他の男もしてるのかもしれぬよ？紫乃どののはあまり瞳どのの以外に目がいかぬから…」

話してもお前はいちいち邪魔をするではないか！それにお前が

喋るときもいつ！

「うう……。紫乃どのー！」

だあー！だから触るなと言っているだろうが！ところでお前！康人（やすひと）様の守りはどうした！

康人様はこいつの守るべきお方であり、瞳様の想い人。最近ようやく二人は両思いになり、お付き合いました。ばかりだった。

「へ？ああ、康人なら……。うん。もうそろそろでござりまする」

？そろそろ？何がだ？それに守らなくて大丈夫なのか？

「大丈夫であります。それより瞳どのは？」

話をそらすな！

「紫乃どの、瞳どのは？」

くっ……。……。どうも、一人になりたいらしいっ

瞳様がたとえ私の姿が見えてなくても、何故か今日だけは絶対に誰にも見られたくないというのが何となく。だが伝わった。

いくら私でも瞳様のプライバシーを侵害するようなことはしない。

そういえば今日はどこか顔が赤かった。熱があるやもしれん。

「その理由はあとでわかります」

？

「きょんとした紫乃どのも可愛いでござりまするー！早く、早く紫乃どのの声が聞きたうございます…」

安心しろ。喋れた日には貴様の存在を徹底的になくす

「ひどい…。…えへへえ」

……？

傷ついたかと思いきや、今日はやけに立ち直りが早い。瞳様といい、こいつといい、なんなんだろう？

「どちらにしても康人と瞳どのが結ばれば私達はずっと一緒です。あの二人を破局になんて絶対に、絶対にさせません」

…だから、私は貴様などと…

「…紫乃どの」

びくりと肩がふるえた。こいつの顔は先ほどとは違い本気の顔を、私の腕を捕まえると目を熱くさせながら私の顔を見つめていた。

「貴様ではありませぬ」

やつの顔が少しずつ近づいてきてるといつのには私は動くことも喋ることも出来ない。…もとより話せぬが。

人間でもないのに胸がすぐドキドキしている。

「貴様でもお前でもない。…紫乃どの、私の名を」

あ、…う…

「紫乃どの…」

き…え、…き…りえ

「ちゃんと、はつきり…」

「…霧江（きりえ）っ！」

…く、な、何を言わせ……………えっ？

「な、声…が」

「紫乃どの！」

やつがいきなり強く抱きしめてきた。

「そろそろだと想っておりました！私決めていたのです。紫乃どの最初の声は私の名を呼ばせてみせると！」

「な、きさま！……………っ！で、では…瞳様は…。まさ、か…」

「”初めて”、もとい純潔を奪われちゃいましたねえ」

「そんな…」

…む、昔から、昔から大事に、娘のように守ってきたのに…。それなのに…。

大人に、なってしまった。そのことが凄く悲しい。

「なぜ泣いとするのでありますか？康人なら瞳どのをちゃんと支え、

守ってくれるいいやつだと思います。悲しむことなどありませんねよ？」

確かに。彼はとても整った顔立ちをし、誠実で強く、しっかり者で優しい。

清纯で、おしとやかで、内気で、可愛い瞳様に相応しすぎるくらいのお方だと思っていた。

…でも、嬉しくとも寂しいものは寂しいのだ。

「さあ、紫乃どの。我らも…」

「は？…とつ。ちょ、ま、待て！何故私の上に乗るんだ！」

「瞳どのの”初めて”が今、奪われました。つまり現在二人が何をしているのかはお判りでございましょう？」

そ、それは…。顔が赤くなってしまったのが自分でもわかった。

「なっ…！だ、だがしかし何故今私がきさ」「霧江っ」

「…霧江、と、せ、せねばならんだ！降りろ！」

「好きだからに決まってるにございます、紫乃どの」

「だ、だが、わたしは、す、好きでは…」

「では」

「って人の話を聞け！か、顔を近づけ、るな…」

「やっぱり紫乃どのの声は可愛いでありますなあ…。……もっと、もっともっと聞きたいです、紫乃どの…」

瞳様あ…。なぜですか瞳様あーっ！！

（後書き）

霧江の言葉使いが変になってしまった！難しい…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7596n/>

守りましょうとも！

2010年10月11日11時35分発行